

## ◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：埼玉の森林を考える会

代表者：会長 安井 敏晃

URL：

### 1. 活動が必要とされた状況

シカによる森林被害の拡大や大径木の減少等から樹洞性の野生動物が減少しています。シカの生息実態調査や樹木保護並びに樹洞性野生動物の生息調査と保護を行い生物多様性に富んだ埼玉の森林や自然の保全を進める必要があります。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

#### （1）野鳥及び巣箱調査（4月～12月）

県民の森に設置した大型巣箱及び夏鳥用巣箱の利用状況調査及び野鳥の生息調査を実施しました。目視、双眼鏡及びハードディスクレコーダーやトレイルカメラの記録を確認・分析し、利用状況や動物の種類、行動パターン等について調査しました。

#### （2）ナイトネイチャーツアーの実施（7月、8月）

埼玉県農林公社と共催で、夜の森を観察するツアーを開催し、車で移動しながら、ムササビやニホンジカなどの野生動物を探しました。

#### （3）森林におけるシカの影響調査としてライトセンサスや区画法調査を行い、樹木保護として防護柵の設置を行いました。

### 3. 活動の成果

#### （1）野鳥及び巣箱調査（4月～12月）

6箇所の巣箱がムササビに一時的または一定頻度での利用が確認され、そのうち1か所では2年連続して繁殖場所として利用しました。

また、カメラの記録から一時的に巣箱内にテン、モモンガ、ヤマネ、アオゲラ等の出入りが確認でき貴重な樹洞性動物の把握ができました。

通年で47種の野鳥を確認し、夏に渡ってくる夏鳥等樹洞性鳥類は、今年度設置した夏鳥用巣箱6個のうち1個の巣箱でオオルリの繁殖が確認できました。

#### （2）ナイトネイチャーツアーの実施（7月、8月 11名参加）

学習室で映像を見ながらシカの森林への影響や生息状況及び樹洞性野生動物の生態学習後、車に分乗してシカのライトセンサスを体験してもらいました。

#### （3）区画法調査の実施（11月、15名参加）

会員及び県民によって調査を行いました。



### 4. 今後に残された課題

野鳥及び巣箱調査では、想定された樹洞性野生動物を確認できましたが、キビタキ、オオルリなどの夏鳥の繁殖状況の把握が課題となっています。

日本各地で問題となっているニホンジカに関して、埼玉県でも大きな問題になっており生息実態や被害対策を進める必要があります。

会での活動により知り得た情報を観察会や報告会を開催して多くの県民の皆様に森林をはじめとする自然環境の保全の必要性を伝えたいと思います。